

安全

637 万人

多くの方々と連携しながら、日本国内において延べ600万人以上のお客様に交通安全・運転教育を実施。全世界においても、積極的に活動しています。

重要課題

- 交通事故死者数の大幅削減
- 情報化・自動化技術の生活への活用



7 パフォーマンス報告

環境	36
▶ 安全	56
基本的な考え方	
安全に関する取り組み	
第三者評価	
品質	65
人材	79
サプライチェーン	96

基本的な考え方

事故に遭わない社会へ

創業者・本田宗一郎の「交通機関というものは人命を尊ぶものである」という言葉にあるように、Hondaは共存安全思想のもと、クルマやバイクに乗っている人だけでなく、道を使う誰もが安全でいられる「事故に遭わない社会」の実現をめざしています。

Hondaの安全への取り組みの歴史は古く、1960年代にまでさかのぼります。日本のモータリゼーション発展期の、「安全運転」という明確な概念もなかったこの時代に、二輪車・四輪車メーカーで初の試みとなる安全運転普及活動を開始し、その後、「運転席用SRSエアバッグシステム」、世界初の「歩行者ダミー」、自分だけでなく相手の安全も守る「コンパティビリティ対応ボディ」などの技術を開発。2000年には、世界初の「屋内全天候型 全方位衝突実験施設」を建設し、現実の事故形態により即した衝突テストを行っています。

こうして生み出された安全技術は積極的に各製品に適用しているほか、歩行者ダミーについては、交通社会全体の安全向上のため、その使用をHondaでの製品開発に限定せず、他社や研究機関に貸し出すなど、歩行者保護の研究に広く貢献しています。

Hondaは、その時代、その地域が抱える事故の実態を見据え、積極的に交通安全に取り組んでいます。

活動の方向性

Hondaは「事故に遭わない社会」の実現をめざし、「ヒト（安全運転教育）」「テクノロジー（安全技術）」「コミュニケーション（安全情報の提供）」という3つの領域において、安全推進活動を行っています。

しかしながら交通環境の問題点は、「交通が集中し過ぎている」「インフラが整備されていない」といったように、地域によってさまざまです。そこでHondaは、各地の実情に応じて、「ヒト」「テクノロジー」「コミュニケーション」それぞれの領域を組み合わせ、取り組みを展開しています。

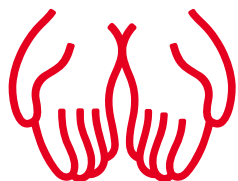
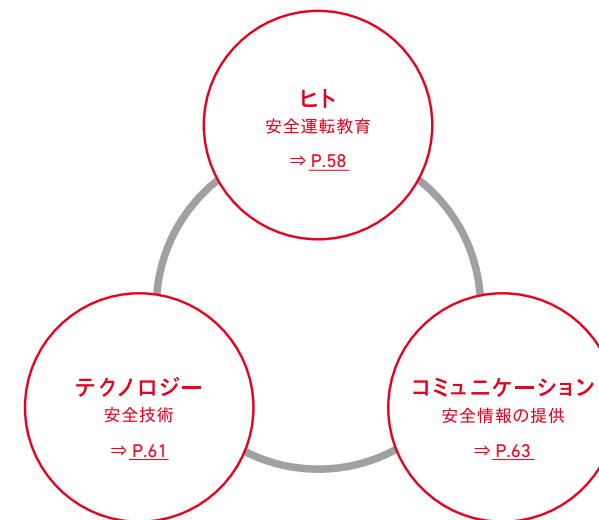
例えばタイでは、アジアのなかでもとくに交通事故死亡者に占める二輪車の比率が高く、安全対策が喫緊の課題となっています。Hondaは2016～2020年、タイにおける約1,000件の交通事故情報を収集・分析する詳細調査を実施することになりました。この調査では、まず交通事故を引き起こす根本的な原因を突き止めます。そうして蓄積した知見をもとに、「ヒト」分野においてより適切な安全運転普及活動を展開し、「テクノロジー」分野においてさらに効果的な安全技術の開発へとつなげていく予定です。この取り組みは、アジア・大洋州の各地域にも順次拡大していきます。

グローバルスローガン

Safety for Everyone

クルマやバイクに乗っている人だけでなく、道を使うだれもが安全でいられる「事故に遭わない社会」をつくりたい

安全推進活動の3つの領域



safety

7 パフォーマンス報告

環境	36
▶ 安全	56
基本的な考え方	
安全に関する取り組み	
第三者評価	
品質	65
人材	79
サプライチェーン	96

安全に関する取り組み

ヒト（安全運転教育）

Hondaのアプローチ

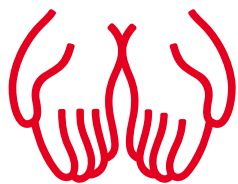
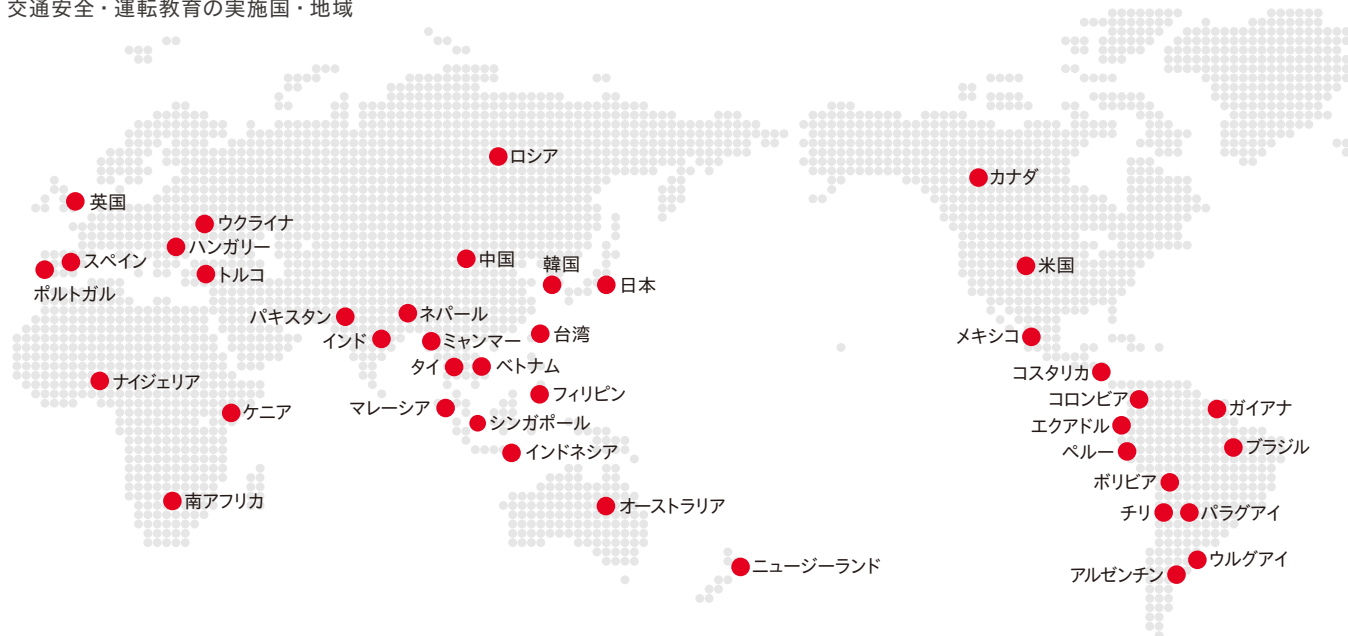
Honda は、1970 年に安全運転普及本部を開設しました。以来、交通安全センター※をはじめ、二輪車・四輪車・パワープロダクツの販売会社や、地域の企業や学校の皆様と協力しながら、これまで日本国内において延べ637万人以上のお客様に交通安全・運転教育を実施してきました。

活動は、人に焦点を当てた「人から人への手渡しの安全」と、危険を安全に体験する「参加体験型の実践教育」を基本として、3つの柱を立てて活動しています。1つめは、

交通安全の担い手である指導者を育成する「人づくり」。2つめは、交通安全を考え、学ぶための「場」と「機会」を提供する「場づくり」です。3つめは、学習効果を高めるための教育プログラムや教育機器を開発する「ソフトウェアの開発」です。

海外においても、1972年にブラジルで安全運転普及活動を開始して以来、各国に交通安全センターを設置したほか、地域の販売店と協力するなど、日本を含む世界40カ国で活動を実施しています。そのなかでも、とくに新興国では、急速なモータリゼーションが進む一方で、法規制や交通ルール、道路インフラなどが未整備な地域があり、交通死亡事故発生件数の増加が社会課題となっていることから、Hondaでは、当該国や自治体関係者と連携しながら活動を強化しています。

交通安全・運転教育の実施国・地域



※交通安全センター：交通安全に関する社内外の指導者養成や、企業・学校・個人のお客様に安全運転教育を行うHondaの施設。

7 パフォーマンス報告

環境	36
▶ 安全	56
基本的な考え方	
安全に関する取り組み	
第三者評価	
品質	65
人材	79
サプライチェーン	96

安全に関する取り組み

2017 年度の活動実績

2017 年度は、2030 年ビジョンに掲げた「交通事故ゼロ社会の実現」に向けて、「人から人への手渡しの安全」と「参加体験型の実践教育」を基本として、新たな時代を見据えながら、交通社会の変化やニーズに合わせ、活動を進化させました。

先進の安全運転支援システム「Honda SENSING」の普及拡大にともない、搭載されている衝突軽減ブレーキや誤発進抑制機能の効果と限界について、お客様に正しく理解し使用していただくため、四輪販売会社においてお客様と接するスタッフ向けに、研修プログラムを開発しました。今後、本格的な展開を行っていきます。

また鈴鹿サーキット交通教育センターは、企業などの安全運転研修用に、ドライバーの運転意識と行動の変容を促す教育プログラム用システムを刷新しました。システム刷新により、個々人の運転習慣の可視化がより明確となり、指摘内容の納得性が飛躍的に向上することで研修効果を高めています。

歩行中の交通事故死傷者数を年齢別にみると、7 歳児が突出していることから、この年齢を含む小学校低学年を対象にした新たな教育プログラムを開発しました。このプログラムは道路歩行時の危険予測を題材に、児童に考えさせ、気づきを促す手法を取り入れました。今後、全国の交通指導員の皆様を通じて広めていきます。

その他、「SAFETY MAP」に反映される急ブレーキ情報などを、道路改善などの事故防止策に役立てていただくため、新たに千葉県警察本部、警視庁と交通事故防止対策の推進に向けた協定を締結しました。

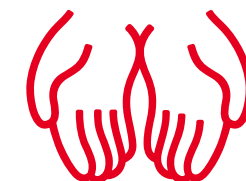
高次脳機能障がい者の運転再開に向けた取り組みでは、沖縄県での指定自動車学校協会と作業療法士会との連携活動など、各地域で自立して活動していただくためのサポートを継続して行っています。

海外においては、ホンダベトナムカンパニー・リミテッドが、2017 年 3 月に新たな交通教育センターを開設。安全運転普及本部は、現地のインストラクターのスキルアップに協力しました。

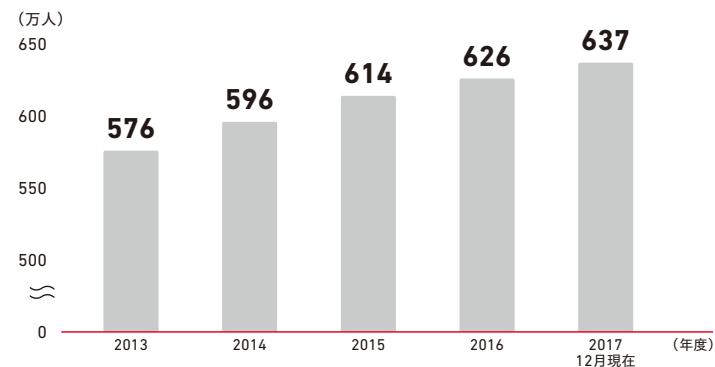
四輪車の普及が拡大しているアジアの国々で交通安全を普及するため、海外事業所の担当者に対する研修も実施、今後の活動展開が期待されます。



Honda SENSING 販売会社スタッフ向け研修の様子



日本における安全運転普及活動動員数（累計）



7 パフォーマンス報告

環境 36

▶ **安全 56**

 基本的な考え方

安全に関する取り組み

 第三者評価

品質 65

人材 79

サプライチェーン 96

安全に関する取り組み

T O P I C S

ベトナムで新たに交通教育センターをオープン

ホンダベトナムカンパニー・リミテッドは、1999年から安全運転普及活動を本格的に開始しており、二輪車のモータリゼーションの拡大に対応し、販売店での安全アドバイス、子どもや青年に対する安全教育、TV番組を使つての安全啓発など、幅広い活動を展開してきました。2017年3月には、ハノイ市郊外にある工場敷地内に、新たに交通教育センターをオープンし、従来の二輪車の運転免許取得講習に加え、四輪車の運転免許取得前講習を開始しました。また政府関係機関と協力し、四輪指導員の競技大会を開催するなど、ベトナム社会の交通安全に大きく寄与しています。



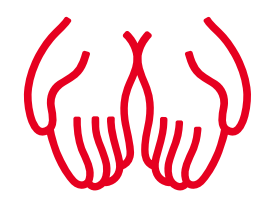
ハノイ市近郊にオープンした交通教育センター（左）と訓練風景（右）

アジアの四輪海外事業所の担当者研修を、日本で実施

アジア・大洋州地域の地域統括会社であるアジアホンダモーターカンパニー・リミテッド（所在地：タイ）は、鈴鹿サーキット交通教育センターにおいて、安全運転普及活動実施のための研修を開催しました。東南アジア、南西アジアの四輪海外事業所担当者が、商談時の安全装備に関するアドバイスや、納車時における安全運転のアドバイス、納車後のミニスクール運営指導方法などを、同センターインストラクターから学びました。



アジアの四輪海外事業所向け研修



7 パフォーマンス報告

環境 36

▶ **安全 56**

 基本的な考え方

安全に関する取り組み

 第三者評価

品質 65

人材 79

サプライチェーン 96

安全に関する取り組み

テクノロジー（安全技術）

Honda のアプローチ

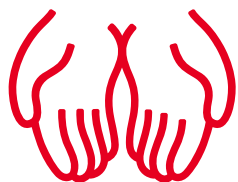
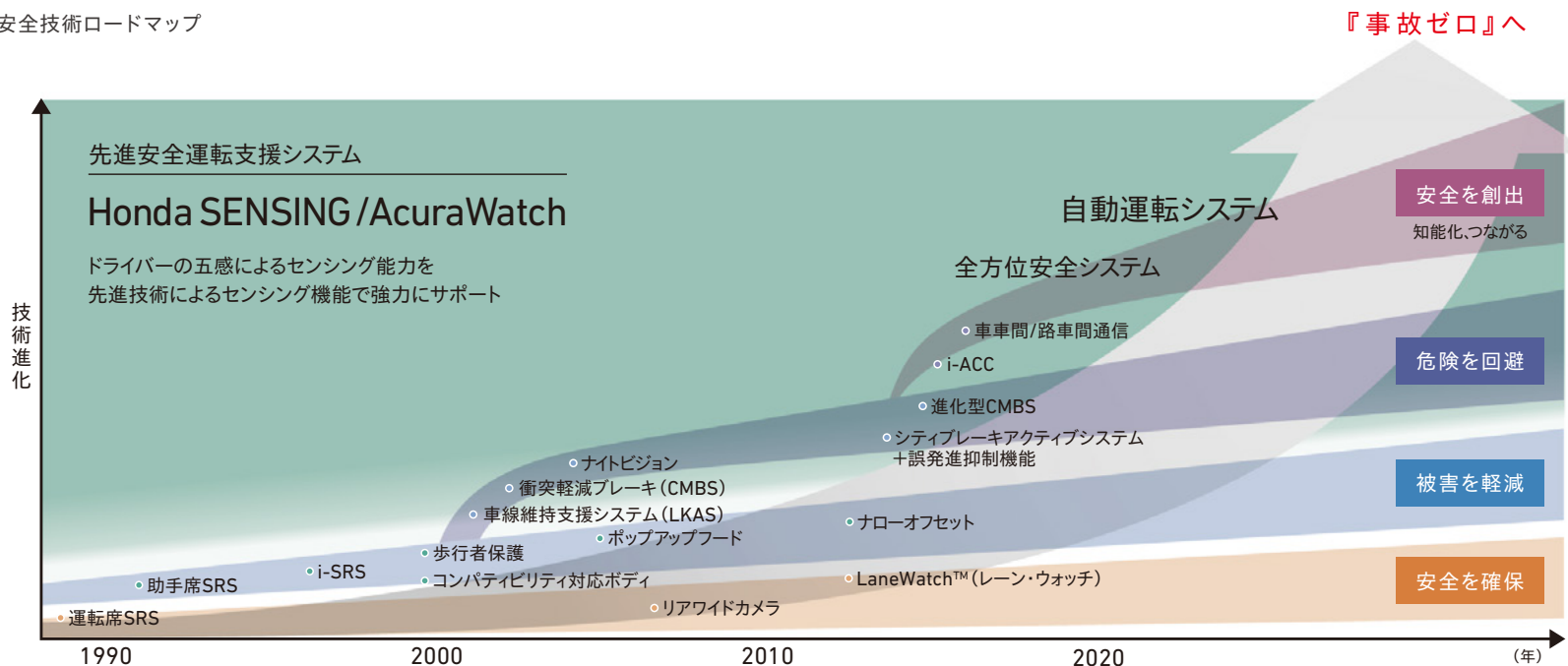
Honda は、二輪車・四輪車などさまざまなモビリティが混在する現実の交通環境、リアルワールドでの事故の実態を重視し、規制を超える高い目標をつねに掲げ、「無いものをつくる」という姿勢で安全技術の開発に取り組んできました。

1998年には業界に先駆けて世界初の歩行者ダミーを開発、2000年には世界初の屋内全天候型 全方位衝突実験施設を建設しました。また、2003年にはコンパティビリティ対応ボディと、世界初の「CMBS」※を開発するなど、安全技術を次々と開発し実用化しています。

2014年には、新たに先進安全運転支援システム「Honda SENSING」/「AcuraWatch」を発表しました。Honda SENSING/AcuraWatch は、センサーなどを活用し、車両の周辺情報をもとに、通常走行時から事故回避まで運転を支援する、将来の自動運転技術につながる先進安全技術の総称です。

Honda は、道を使う誰もが安全でいられる「事故に遭わない社会」の実現をめざし、四輪車の安全技術ロードマップ（下図）のように、今後も着実に技術開発を進めていきます。

安全技術ロードマップ



※ CMBS : Collision Mitigation Brake System (衝突軽減ブレーキシステム) の略。

7 パフォーマンス報告

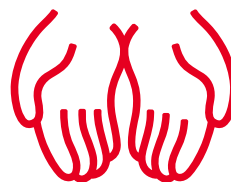
環境	36
▶ 安全	56
基本的な考え方	
安全に関する取り組み	
第三者評価	
品質	65
人材	79
サプライチェーン	96

安全に関する取り組み

2017 年度の活動実績

2015年に日米欧の3地域で発売した、先進安全運転支援システム Honda SENSING/AcuraWatch は、搭載機種拡大を続けています。

日本では「N-BOX」「グレイス」「シャトル」など軽・コンパクトの κατηγοリーに搭載機種を拡大するとともに、標準化を進めています。米国では「フィット」「HR-V」のコンパクトの κατηγοリーに搭載し、ほとんどの車種に搭載が進んでいます。欧州では「ジャズ（日本名フィット）」と HR-V に、中国ではフィットに、タイでは「CR-V」に新たに搭載しました。



T O P I C S

2017 年 11 月、東京での自動運転車試乗会

Honda は 2020 年をめどに、高速道路で「レベル 3」に相当する自動運転技術を実用化し、その後、利用できる範囲を一般道に拡大することをめざしています。さらに「2025 年頃までに『レベル 4』の技術的確立をめざす」というロードマップを描き、人々と社会へ新しい価値を提供する自動運転ビジョンを掲げています。この自動運転による価値提供実現のために、より高度な自動運転システムの開発に加えて、より良い制度の構築（法律・保険など）、インフラの整備、そして社会受容性の醸成に取り組んでいます。

2017 年 11 月には、SIP※1 自動走行システム推進委員会が主催する「SIP-adus※2 大規模実証実験」と「SIP-adus Workshop」に参画しました。国内外の政策立案者・専門家に、首都高速での自動運転車試乗を体験いただき、Honda の自動運転技術進化の認識とともに、リアルワールドでの課題解決に向けた議論の深化を進めています。



自動運転車試乗会

※1 SIP: Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program (戦略的イノベーション創造プログラム) の略。内閣府総合科学技術・イノベーション会議が、府省庁の枠や旧来の分野を超えたマネジメントにより科学技術イノベーションを実現するために創設した国家プロジェクト。

※2 SIP-adus: SIP-Innovation of Automated Driving for Universal Services (SIP 自動走行システム) の略。

7 パフォーマンス報告

環境	36
▶ 安全	56
基本的な考え方	
安全に関する取り組み	
第三者評価	
品質	65
人材	79
サプライチェーン	96

安全に関する取り組み

コミュニケーション（安全情報の提供）

Hondaのアプローチ

Hondaは、1998年に通信機能を備えたカーナビゲーションシステム「インターナビ」の提供を開始し、Honda車から得た走行データを活用した渋滞情報の提供を始めました。こうした便利さに加えて、Hondaは2004年から気象情報を、2007年からは災害情報を提供するなど、通信と情報を融合させたテレマティクスサービスを活用して、ドライバーのより安全で快適な運転を支援する情報の提供を開始しました。

その進化の一つのかたちとして、日本では、クルマの急ブレーキ情報や、警察や自治体からの交通事故情報、地域の人々から提供された道路情報などを統合・解析し、ドライバーを含めた地域の人々にあらかじめ危険な場所を知らせる「SAFETY MAP」を作成。多くの人々にご活用いただいています。

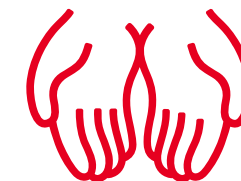
また、現在はHonda SENSING/AcuraWatchの技術とテレマティクスサービスを融合させ、センサーやGPSを搭載したほかのクルマやバイク、さらに周囲の人々が持つスマートフォンをWi-Fiなどの無線通信で結び、周囲の交通状況や交通事故のリスクをリアルタイムで情報提供する仕組みづくりに注力。道を使う誰もが安全でいられる「事故に遭わない社会」の実現をめざしています。

TOPICS

ソフトバンクと5G^{※1}を活用した コネクテッドカー技術^{※2}の共同研究を開始

株式会社本田技術研究所は、ソフトバンク株式会社と、5Gの普及を想定した共同研究の検討を開始しています。本研究は、自動車を中心としたモビリティとさまざまなモノが「つながる」ことで、新たな体験や価値を提供する「コネクテッドカー技術」の強化を目的としたものです。2018年度には、本田技術研究所が北海道上川郡に有するクローズドのテストコース「鷹栖ブルーピングクラウド」において、ソフトバンクが5Gの実験用基地局を設置する予定です。この5G環境下で、高速移動中に通信基地局を安定的に切り替える技術や、弱電界・圏外域でデータ送受信性能を確保する技術などの共同研究を本格化します。

※1 5G：第5世代移動通信システム。
 ※2 コネクテッドカー技術：自動車のインターネット接続や車車間通信の技術。



7 パフォーマンス報告

環境	36
▶ 安全	56
基本的な考え方	
安全に関する取り組み	
第三者評価	
品質	65
人材	79
サプライチェーン	96

第三者評価

Honda のアプローチ

Honda の多くの車種が、各地域の NCAP※¹において、高い安全評価を獲得しています。また、日本では、JNCAP 予防安全性能アセスメントにおいて、N-BOX が最高ランクとなる「ASV++」※²の認定を受けました。

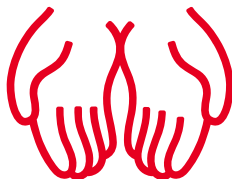
主な第三者評価結果（2017 年テスト実施）

国・地域	第三者評価	機 種
日本	JNCAP	5 ★ N-BOX
	ASV++	フィット / N-BOX
欧州	Euro NCAP	5 ★ 2017 年度評価実績なし
中国	C-NCAP	5 ★ 2017 年度評価実績なし
	NCAP	5 ★ CR-V / パイロット / オデッセイ / リッジライン
米国	TSP+	
	IIHS※ ³ TSP	アコード / CR-V / パイロット / オデッセイ / リッジライン / アクセラ MDX / アクセラ RDX
オーストラリア	ANCAP	5 ★ CR-V / シビック
東南アジア	ASEAN NCAP	5 ★ CR-V
南米	Latin NCAP	5 ★ 2017 年度評価実績なし

※¹ NCAP : New Car Assessment Program (新車アセスメントプログラム) の略。各地域の公的組織が行う、自動車の安全性能を試験・評価するプログラム。各地域で試験方法、評価方法が異なる。0 ★～5 ★ (地域によっては 5 ★+ が最高評価) で評価される。

※² ASV : Advanced Safety Vehicle (先進安全自動車) の略。衝突が避けられない場合に自動でブレーキをかける技術など自動車の先進安全性能を試験・評価する。ASV、ASV+、ASV++ の 3 段階評価で認定される。

※³ IIHS : Insurance Institute for Highway Safety (米国道路安全保険協会) の略。自動車の安全性能を試験・評価する自動車アセスメントを行い、試験結果が優良な自動車のみを TSP、TSP+ で評価。TSP は、Top Safety Pick (トップセーフティピック) の略。



T O P I C S

ASEAN NCAP 新評価プロトコルのもとで、 新型 CR-V が 5 つ星評価を獲得

ASEAN NCAP によるクラッシュテストで、新型 CR-V が 5 つ星評価を獲得し、新評価プロトコルのもとで 5 つ星評価を授与された最初のモデルとなりました。

新型 CR-V には、最新の安全運転支援システム Honda SENSING と、助手席側ミラーに内蔵されたカメラを使用して車両の後方を表示する「LaneWatch™」が装備されています。両技術はそれぞれ 2016 年と 2014 年に、ASEAN NCAP グランプリアワードで「安全技術賞」を受賞しています。



新型 CR-V が 5 つ星評価を獲得

JNCAP の衝突安全性能・予防安全性能評価で、 N-BOX が最高評価を獲得

N-BOX が、JNCAP の 2017 年度「衝突安全性能評価」において最高評価となる 5 つ星を、「予防安全性能評価」においても最高評価となる「予防安全性能評価 ASV++」を獲得しました。両評価において最高評価を獲得したのは、軽自動車では N-BOX が初めてとなります。

N-BOX はさまざまな技術を採用し、高い全方位衝突安全性能を実現しています。また Honda の軽乗用車として初めて、Honda SENSING を全タイプに標準装備しています。